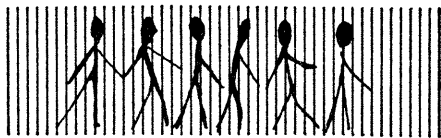


## 家庭での教育と幼稚園の教育

並川 明子



日頃よく母親たちから「家では中々言うことを聞かないのに、幼稚園の先生の言われることはどうしてよく聞くのでしょうか。」と訴えられます。これは幼稚園という集団の場に入ると「友達と一緒にするんだ。」「みんなもしているから僕もがんばらなくてはいけません。」と周囲につられて、子供ながらに甘えの心を押しえて自己を律して行動する為に、家より一段とよい子にできる結果だと思えます。だからといって

家庭教育をすべて幼稚園が代ってするという事はできません。本来家庭で指導するはずの基本的な生活習慣については、幼稚園でももう一度徹底しながら十分身につくように力を入れて指導していますが、それをよい事にして家庭で躰の手をぬくようなことがあっては困ります。園と家庭でよく連絡しあって、これらの躰や教育に行き違いないように進めることが大切でしょう。

それでは家庭でなければできない教育とはどんな事でしょうか。幼児期にはまず生活習慣の確立に始まり、食事の作法、言葉使い等の躰の面と、お手伝いなど役割分担をさせることで家族の一員としての認識をもち、家族同士の親愛の情や尊敬の念など自然と身につくように導くことが大切です。それに感謝の気持、正直な心、思いやりの情など人間として生きていくために最も大切で基本となる心を育み、大宇宙の大きい力に対する敬虔な心（宗教心）を持った人間に成長するように心をくわいて導くことこそ家庭教育でなければできない大切な目標だと思います。これらを達成するためには、毎日の生活の中でこまごました具体的指導が必要ですが、一番大切なことは、両親が信頼しあい尊敬しあって、一生懸命生きている姿を見せることと、子供の健やかな成長を見守り、日々祈りの心で接すること、この二つの実践が正しい家庭教育を支える大切な柱となると考えます。

幼稚園教育の目標は、大勢の友達と一緒に話を聞き、それを自分なりに理解し、自分の意見も集団の中で発表し相手に気持を伝え、友達との交流を通して協調することや競い合うことを学び、社会人として成長していく事ではないかと考えます。喧嘩してぶつかる事で人の心の痛みもわかり、思いやりの心が育ったり、運動会や発表会などの行事を通じてやりとげる粘りの心も育つことでしょう。音楽や絵画製作や劇あそび、それに戸外の運動あそび等、すべて大勢の友達と共に遊ぶ事により諸々の感覚が磨かれ、知らぬまに身体の諸能力が発達していきます。このように幼稚園では遊びを充実させることにより、知情意の調和のとれた人になるよう導くことが大切な目的であると考えます。

近年、中学・高校生の非行が社会問題となっていますが、暴力を振ったり問題行動をする子供の年齢が段々低下して、今や中学・小学生におよんできたと言われ、その原因は過保護や過干渉による幼

時期からの育て方に問題があったと発表されていきます。この子等を育てた親たちの幼時期を見ると第二次世界大戦の前後に生まれ世情は混乱し、経済的にも厳しい時期で、学校でも社会でも家庭でも落ち着いた教育を受けられない状況でした。自分たちの恵まれなかったつらい思い出の反動として、せめて可愛い我が子には充分の事をしてやりたいと願い、小さい時から欲求をできるだけ叶えてやるうと努力したのではないのでしょうか。その上世の中の風潮も所得倍増にうかれ、消費は美德などと景気のよい時代で、辛抱することも少なく幼時期を過ごした子供たちが成長して非行に走るようになったのも無理からぬことだと思えます。昔から三つ子の魂百までと言われてきたように、幼時期にどのような環境でどのように育てられたかによってその人柄もつくられることを考えれば、両親の育児観とその態度が一番大切です。

私は昭和二十四年より幼児教育にたずさわってき

たので時代により少しずつ母親達の考え方や態度が変化している事を感じてきましたが、数年前より若い母親の教育観や生活態度に大きい変化があらわれてきたように思います。例えば幼稚園や小学校の役員になると、種々の会合などに時間をとられるのであるを嫌がり、選出する時期だけパートタイムに出るなどして口実をつくり、役員を逃げようとする人が多くなりました。そして余暇時間を気の合った友人と、バレーボールやテニスを楽しんだり、スイミングクラブに入ってエンジョイする等自分の生活をまず優先させています。特に最近の若い母親は自分の考えを論理的に主張し、遠慮とか控え目な態度が少なくなつて来ました。これらの変化をすべて悪いと決めつけることはできませんが、人の為にも働くことの喜びを親自身が拒否するような生活態度は、子供たちにとって一番の教育者である親として少し問題ではないでしょうか。

また、両親教育こそ大切だと幼稚園や学校で計画

を立てても、テレビ等で有名な講師には集まりますが、地味な講師の講演会などには進んで参加しようとしません。これは母親たちが大学や短大卒と高学歴になってきて、学習に対する飢餓意識が薄れてきたせいもあるのではないかと推察します。しかし母親の学歴が高くなるにつれて、子供の教育が立派にできるようになったかという点、首をかしげざるを得ません。ある母親は「子供は自由にのびのび育てよ。」という説をはき違えて、全く放任して育てて、

人の迷惑も考えず行儀の悪い乱暴な子にしたり、反対に過干渉で、親の顔色ばかり見て行動する依頼心の強い子にしたり、何事も理屈で教えて、こましゃくれた屁理屈ばかり言う可愛くない子に育ててしまったり、こうした問題を持った子供が、三才四才になって初めて社会生活を始めるために入園してくるので、幼稚園の受入れは大変です。中にはすぐに友達をつくり活発に遊んだり、先生の話もよく聞いて意欲的に行動する子供もいます

が、中々親から離れられなかったり、やっと離れても友達の中に入りにくくぼんやりと傍観していたり、何事にも意欲を示さず、集中力が無く自分勝手な行動で集団を乱す子など、それまでの家庭教育によって様々の習性や個性が育ってきています。

そこで、入園前の面接や発達テスト、入園直後の家庭訪問や生育歴調査等で子供の実態を把握し、入園後に集団の中で示す行動と重ね合わせながら幼稚園での心の状態を推察して、その後の指導について適切な目標と方法を考え日々の保育の中に織り込んでいきます。しかし始めに育て方を誤った場合、多くの努力を重ねても矯正することは中々大変で骨が折れます。どのようにしたら理想の教育ができるのか、現代色々の説が発表されるので、経験の少ない親たちにとって、どちらの意見が正しいのだろうと迷ってしまう事もあります。核家庭の多い昨今、若い夫婦に子供の教育について教えてあげる社会教育の場が必要です。保健所ではこれまで健康面

に力を入れて指導していますが、今後は乳幼児の知  
の発達や情緒の発達など心の面にも正しい育て方を  
指導してほしいものです。

理想的には結婚前から「良い家庭とは」「夫婦の  
あり方」「正しい子育て」など学ぶことが良いので  
すが、子供が生まれる迄は一般にそちらに心が向か  
ないようです。そこで私は妊娠中もしくは乳幼児を  
育てている若い母親が気軽に学んだり相談できるよ  
うにと考えて、昭和五十四年より幼稚園に併設して  
母親教育を目的に幼児教育センターを設立しまし  
た。ここでは毎月講演を聞き各方面の講師から幅広  
く正しい教育について学んだり、子育ての悩みや不  
安について相談にのったり、各種テストを希望者に  
実施して発達状況を正しく把握し適切な助言を与え  
たりしています。講習会も毎月内容を変えて開催  
し、親子体操・親子水泳・手作りの玩具・子供のため  
のお菓子や料理の作り方等指導しています。入会は  
幼稚園の在園に無関係なので、広い地域から希望者

が勉強に参加している現状です。親たちの希望によ  
り二才児を持つ会員で希望する者は、週一度集まっ  
て、子供同士一緒に遊ばせる機会を持つようにして  
います。三年の経過を見ると、一生懸命参加し  
て正しい育て方を学んで来た母親たちは、子育てに  
気負いがなくなり、明るく取り組んでいるので、そ  
の子供たちは落ち着きがあり逞しく育ってきており  
ます。そして母親が講演をきいている間はその横で  
静かに遊んでおり、会員外の子供たちと異なって走  
りまわったり大声をたてて騒いだりすることが大変  
少ないのです。中にはダウン症や言葉の遅れ等、問  
題をもった子も入会してきますが、少しずつその症  
状が良くなって、普通の幼稚園へ入園できそうにな  
るまで成長してきました。この様子を見ると胸のふ  
くらむ思いがして、小さなセンターなので公費の助  
成も全く無くて、毎年赤字の積み重ねではあります  
が、今後もがんばって子供たちが立派に育つお手伝  
いをしていきたいと願っております。(和弘学園)